

2015年 わたしの抱負



加来です。私の今年の抱負は【謙虚さを養う】です。

石川です。私の今年の抱負は【謙虚と積極性】です。



相続相談
売買担当



石川です。私の今年の抱負は【心機一転】です。



西村です。私の今年の抱負は【継続】です。

井料(いりょう)です。私の今年の抱負は【自分と向き合う】です。



賃貸管理
相続相談



柴田です。私の今年の抱負は【的を絞る】です。

渡邊です。私の今年の抱負は【一日一善】です。



加来(妻)です。私の今年の抱負は【素直な心】です。

経理事務

今井です。私の今年の抱負は【感謝の言葉を伝える】です。



今年も
宜しくお願
いします



昨年はいろいろな方のご支援を頂き、本当に感謝です。ありがとうございます。わたしどもでは毎年、仕事始めに一年の抱負を発表します。それぞれの抱負にそった具体的な行動や目標などを伝えることとお互いに刺激をうける気がしております。とは言い、まだまだご期待に沿っていない場面も多々ありますが、少しずつ時間をかけ、皆さ一人ひとりのお役に立てるよう進化・成長していきたいと思っております。

加来 寛からで挨拶



平成27年1月10日

Vol. 123

発行所 加来不動産株式会社
 発行者 加来 寛 ・ スタッフ一同
 小倉南区守恒本町一十二二十三三二〇一
 (093)九六二一五八一
<http://www.kaku-f.co.jp/>

皆様にとっても実り多き 良き一年となりますように

明けましておめでとございます。やはり新年はイイものですね。気持ちも引き締め清々しくあります。今年一年も宜しくお願い致します。

【今後の市場動向】

社会問題となってきた「空き家問題」。その解消に向け各自治体を取り組みを強化しております。今後は、「特定空家」と認定された場合、固定資産税の住宅用地特例を適用せず、更地同等の税率にすることも検討しているようです。

先月グッときた本の紹介



加来
ゆかり
の

『一瞬で人生が変わる恩返し』の法則』

「人生が変わる恩返しとは何？」と思いの本を手に取り読んでみました。読み終わる頃には今まで自分と関わりを持って過ごしてきた方達への考え方や思いが大きく変わりました。「人生とは恩を感じて、恩返しをして死んでいくこと」という言葉が心に響きました。自分一人で生きているのではなく、周りから生かされているということ。心からの「ありがとう」が伝えられるように行動していこうと決めました。何かに行き詰った時、悩んでいる時、この本がきっと勇気づけ背中を押してくれると思います。



西田 文郎[著]
 出版:ソフトバンク
 クリエイティブ

不動産なんでも相談

「Q、自宅やアパート、駐車場などの不動産があるため相続税がかかってきます。しかし相続税を払う資金が不足しています。どうすればいいでしょうか？」

自宅に加えてアパートや駐車場を所有しています。家賃収入はあるものの、相続税額を計算するとかなりの相続税が発生しそうですが、それを支払う資金が今の手持ち資金では不足しています。この場合どうすればよいのでしょうか。

A、信頼のおける専門家に相談ください。

方は正しい想いを持たれてる人だと思えます。ただ、財産（不動産）を残してくれた先祖様が「財産を守ってほしい」という想いなのか、「家族仲良く平和に暮らしてほしい」という想いなのかを考えると、わたしは後者ではないかと考えるのです。であるならば、引き継いだ財産（不動産）によって苦しい状況になるのであれば、手放して、自分をふくめ次の代を楽にしてあげるこのほうが私は大切なような気がします。もちろん、遊ぶ金欲しさに処分するのは論外ですが……。

■まとめ

時代とともに法律だけではなく、考え方も変わってきています。それに柔軟に対応していくことがこれからの時代を健やかに生きていくことだと思います。

《編集 加来》

相続税が支払えない！？

■まずは相続に詳しい専門家へ
平成二十七年一月一日から相続税の控除額が4割減となることから、様々な場面で「相続」という言葉を耳にしたり目にしたりする機会がふえました。

そこであえてお伝えしたいことは、聞きかじった情報を鵜呑みにして自分で判断しない、ということです。

ご自分で判断し、結果うまくいけばそれはそれで良いかもしれませんが、相続に絡む問題はその人が思ってもみなかったことが問題として浮上ることが珍しくありません。また知らないばかりに余計な税金を支払うことになる。

可能性も否定できません。ですからできれば信頼のおける専門家にご相談していただき、そのなかでご自分の家庭環境にあった選択肢を選んでいただきたいと思います。

■固定概念に捉われない

これはあくまでもわたし個人としての考え方ですが、現在所有している土地やアパートなどが負担となるのであれば、処分したほうがよいと思っています。

しかしこのようなことをご提案すると「先祖代々から引き継いだ財産（不動産）を自分の代で処分するわけにはいかない」という答えが返ってきます。

おっしゃる通りだと思えます。自分の代で財産をなくしてしまうことに抵抗を感じる

柴田 知彦の感動体験

毎年恒例の行橋駅前での「チャリティーもちつき大会」に参加をしました。年末の最終日曜日に行われているのですが、今年が4回目の参加です。

早朝6時30分に行橋駅に集合し、テントの設営からスタート。臼を設置し、ガス栓からボイラーのセッティングと準備は慌ただしく進みます。昨年は餅のつき手を担当したのですが、餅をつくという共同作業にはリズム感が絶対的に必要です。しかしわたしは致命的なほどリズム感に欠けた餅をちぎり、丸める係に回りました。

つき立ての餅をちぎり、ちようど良い大きさにする。

それだけの係なのですが、とにかくつきたての餅は熱い！餅をちぎる右手の親指と人差し指の間に軽度のやけどを負いつつ、とにかくついた餅を千切っては丸め、千切っては丸めの作業を繰り返しました。

ベテランのお姉さま方からも熱い指導を受けながら、終わりには「（ちぎりが）上手になったねえ。早いねえ」というお墨付きをいただくことができました。売れ行きは今年も絶好調。毎年つく量を増やし、今回は80キロの餅をつきあげ、11時30分には完売することができました。

皆さま、お餅をつく際にはぜひお声かけください。千切りと丸めだけは自信を持ってお手伝いにかがいます！



《柴田》